

韓国で賀川豊彦シンポジウム

思想、業績振り返る

若者ら80人参加 神戸の孫も発言

韓国の生活協同組合やキリスト教関係者が集う「賀川豊彦牧師社会宣教献身100周年韓国シンポジウム」が27日夜、ソウル市の青於藍アカデミ

ーで開かれた。若者を中心に約80人が参加し、賀川思想や行動の現代的意味について意見を交わした。

賀川が神戸のスラム街で救貧活動に取り組み始めて今年12月で100年を迎えるのに合わせ開い

た。海外での記念事業は米国ロサンゼルスとニューヨークでの「死線を越えて」上映会に続く3カ所目。

主催のヤン・ヒソン青於藍アカデミー理事は「韓国で著名な内村鑑三と比べ、より行動的で広範な社会活動を行った賀川を紹介する意義は小さくない」とあいさつした。

日本から参加したグラフィックデザイナーで賀川の孫、督明さん(56)は

東灘区渦森台には、賀川が行った数々の社会運動を写真とともに紹介し、「賀川が貧しい人々と痛みをシェアしたこと、痛みを再び現代に生かす工夫が必要だ」と語った。

韓国生協の元運動家キム・ジェイル牧師は「韓国も日本同様、貧富の差が拡大している。今こそ賀川をもう一度振り返る価値がある」と意義を強調した。

(河尻 悟)



賀川豊彦の思想や行動を紹介する孫の督明さん(右)＝韓国・ソウル市